

(7) 早期療育介入をうけた自閉症スペクトラム児をもつ母親のストレスに関する調査

川崎医療福祉大学大学院 医療福祉学専攻 修士課程 年岡 陽子

【要 旨】

早期療育は、自閉症スペクトラム児にとって有効であり、その家族にも良い影響をもたらすとされている。本研究では、家族の中で一番子どもとの関わりがあるであろう母親のストレスと早期療育の関連性を検討することを目的とした。

研究方法は、質問紙を用いて A 県内の①幼稚園または保育所と療育機関の二ヶ所に通う自閉症スペクトラム児をもつ母親、②療育機関のみに通う自閉症スペクトラム児をもつ母親を対象に、調査を実施した。質問紙の内容は、田中(1996)の母親のストレス尺度、中嶋ら(2004)の育児ストレス認知尺度などから構成した。

調査の結果、全体の回収数は、127名(39.4%)であった。有効回答数は106名(83.5%)であった。また、各ストレス尺度に関して、因子分析を行い、因子の検討を行った。その結果、母親のストレス尺度については、2つの因子が抽出できた。また、育児

ストレス認知尺度については、3つの因子が抽出できた。また、母親のストレス尺度の平均合計得点と育児ストレス認知尺度の平均合計得点の間に、有意な関連が見られた。

次に、子どもが療育機関に通所し始めた際の母親の心境の変化(「変わったと思う」「変わらない」分らない)の3群に分かれる)の有無による各ストレス尺度の平均合計得点と各因子の平均合計得点について統計処理を行い、有意差を検討した。母親のストレス尺度においては、3群の差は5%水準で有意差が認められた。また、育児ストレス認知尺度においては、3群の差は1%水準で有意差が認められた。この結果より、他群に比べ「分らない」という群の母親のストレスが一番高く、「変わらない」という群の母親のストレスが一番低いことが分かった。

母親の心境の変化についての自由記述と、この分析結果を照らし合わせ、更に分析を深めていきたい。